

## 地域研究委員会地域学分科会（第24期・第7回）議事録（公開）

1. 日時 2020年7月19日（日） 10:00～12:30

2. 会場 オンライン（Zoom）

3. 参加者（敬称略、以下同）

松原 宏、伊藤 悟、岩瀬 峰代、碓井 照子、岡橋 秀典、小田 宏信、小長谷 有紀、小林 知、菅 豊、曾我 亨、田原 裕子、中澤 高志、増田 聡、水内 俊雄、宮町 良広、矢野 桂司、山川 充夫、山下 博樹、吉田 道代、加藤 幸治

4. 議事概要

(1) 前回議事録確認 事前メール審議にて了承済み。

(2) 報告

①小林 知 連携会員（京都大学東南アジア地域研究研究所 准教授）「『地域学』の海外との連携について：京都大学を中心とした状況の整理」

2つの問題意識—地域学は主専攻になり得ないのか？（第二のアジェンダ）、「地域学」を日本の外へ広げる（第一のアジェンダ）—に基づき、以下の点を中心に報告された。

- ・京大の「地域研究」とりわけ東南アジア研究所の歴史的経緯と特徴（文理融合）
- ・教育のジレンマ＝ディシプリンか？複合領域か？
- ・「地域学」を海外の「地域研究」と重ねることで、「これからの地域学」を展望できる
- ・ディシプリンを学んでこそその地域研究であるが、一方で地域の全体的な理解を欠いた、細分化された研究が増えることへの危惧がある。

その後の質疑応答では、日本的な「地域学」の海外での捉え方や、飯塚浩二の流れをくむ地域研究の継承、ディシプリンと地域研究のズレ、理系のモデル志向研究と地域研究のフィールドワークの相克、ビッグデータ解析と実践的な学知の取扱いなどが議論された。

②増田 聡 連携会員（東北大学大学院 経済学研究科 教授）「復興研究と実践知：『震災復興研究センター』から『みやぎボイス』まで」

東北大学の震災復興支援・研究と、自身の研究活動について、以下の点を中心に報告された。

- ・復興支援に関する全国的な動きとして、学術会議の関連提言や政府復興庁による事業評価、理工系8学会による学術研究報告などがある。
- ・東北大学経済学研究科では震災復興研究センターを設置し、地域産業復興調査研究プロジェクトを実施し、起業・経営人材などの育成支援を行っている。
- ・2013年以降、毎年開催する震災復興シンポジウムである「みやぎボイス」では、地域住民と外部の専門家集団とが連携している。

その後の質疑応答では、福島関連の震災復興研究の動向や、都市工学・土木工学・建築学等における震災研究の成果と課題、震災地でのフィールドワークを通じた学問連携の進展、地域住民との関係性などが議論された。

(3) シンポジウム成果の「学術の動向」での公表について

今後の日程、およびシンポ当日のアンケート結果が説明された。

(4) 次期分科会への引き継ぎについて

「24期は2正面作戦（地域学にかかる政策対応、学問領域としての地域学の構築）を進めてきた。今後、どういったとりくみを行うべきか」という委員長からの問いかけに対して活発な意見交換を行った。主たる話題は、政策対応というトップダウンの流れにボトムアップ型地域学の考えを入れていく可能性、大学教育におけるディシプリンと総合的な地域学の関係、地域学の持ち味であるフィールドワークをコロナ禍でどう実施するか、現場の知を束ねる地域学の役割、高校における地域系学科設置への対応、研究者養成と地域人材養成への対応、地方創生政策の最新動向などであった。

(5) その他

特になし